



# NPO 金沢杜の里 NEWS

2020.7 No.35



常盤町からもりの里春の展望



## 杜の里に舞うホタル

金沢市立杜の里児童館

館長 若村

徹

「あつ、ホタルが飛んでいる」と近所の子供達の声が聞こえてきました。見に行くと、畠田用水沿いの草むらにホタルが三匹フワフワと飛び、黄緑色の光を何度も点滅させていました。草むらをよく見ると、十二匹のホタルが草陰に身を隠すようにして光っていました。間違いなくホタルが増えています。昨年六月二十日の出来事でした。

子どもの頃、若松、鈴見、旭町の用水や畦道に無数のホタルが淡い光を放ちながら乱舞していました。十匹ほど採集して虫かごに入れ、ホタルの光で本が読めるか試したことがあります。結果は、暗くした部屋でも十分本が読めることが分かりました。

ホタルの光は、人工的なLEDやイルミネーションの光と違って自然の光です。月明りの夜に輝く光は、まさに幻想的な感覚を与えてくれる光だと言えます。しかし、残念なことにもりの里地区は、三十年前から水田は、街づくりにより、住みよい街、安全な街として多くの恩恵を受ける一方、ホタルが生息するための自然環境が少しずつ失われています。

NPO 金沢杜の里は、十一年前から自然環境整備保全支援事業に、ホタルの育成活動を杜の里小学校三年生の総合学習の一環として、毎年九月下旬から二か月間、事務所をホタルの宿に、飼育・観察を行い、十一月下旬せせらぎ水路に放流しています。この飼育・観察でホタルの生息に必要な川や用水の水質、カワナナノ存在、住み着くための草むらなどホタルを守るための自然環境が大切であることを学んでいます。

卯辰山を背景に、自然と調和したホタルの舞いは、もりの里地区の風物詩であり、今後もNPO 金沢杜の里の活動とともに、「ホタルが舞う街」を目指して。



# 令和2年度 通常総会

令和2年6月7日(日)の令和2年度通常総会は、新型コロナウイルス発生による緊急事態宣言のうち、石川県は重点的な対策が必要な特別警戒県に指定されたことに伴い、通常総会の開催を中止し、書面による表決としました。

- 1 表決者 85名(実出席者含む)
  - 2 審議事項
    - (1)議案第1号 令和元年度事業報告及び収支決算に関する件
    - (2)議案第2号 令和2年度事業計画(案)及び収支予算(案)に関する件
    - (3)議案第3号 役員任期満了に伴う選任の件
- 書面表決の結果、過半数を超え承認された。

## 令和2年度 事業計画

### 1. 特定非営利活動に係る事項

事業名	活動の概要	施策項目
①調査・研究会	事業促進のため、役員、会員等を対象に調査・研究会を開き計画を検証する。建築行為について、地区計画のルールから緑化の事前審査を行う。	・調査、研究事業 ・街づくり視察研修 ・地区計画申請の審査
②会員の拡大	街づくりに貢献するため、新規会員の拡大と既存会員の特典を促す事業を行い、地域を主体に会員を募る。	・会員勧誘 ・まつりギフト券(桜祭中止)
③ニュース(会報)の発行	街づくり活動の結果や案内等の「ニュース」を発行し、会員、地域住民等に配布する。	・ニュースの編集、発行
④ホームページ開設による情報公開	街づくりの情報を多方面に発信し、活動の輪を広げる。	・HPの維持管理
⑤まちおこしイベント	元気のある街づくりを推進するため、地域が共同で行う「三大まつり」等の各種イベントの協力・支援に関わる事業を行い、地域コミュニティの活性化と住民参加型の自発的な街づくり活動を支援する。	・三大まつり ・小学校、児童館イベント ・ミュージアムロード ・地域防災活動
⑥大学等及び国際交流センターとの交流事業	大学門前町として、地域と大学の交流連携を通じて、学生等が街づくり等の地域貢献に関わる作業及び活動を支援する。	・学生交流活動 ・国際交流活動
⑦花・緑化推進事業	緑豊かな地域に住み、訪れる人々の安らぎに応えるため、周辺住民とともに四季の花々が彩る「花いっぱい運動」事業を行い、緑と花の溢れる心豊かな街づくりに努める。	・花いっぱい運動 ・セットバック保全整備 ・児童館との協働事業
⑧自然環境整備保全支援事業	水と緑豊かな地域の原風景を後世に伝えて行くため、浅野川等の河川保護と里山の保全に関わる団体等の活動を支援し、誇りと愛着のある「ふるさとづくり」の推進に寄与する。	・河川愛護活動 ・里山整備保全活動 ・ホテル育成活動 ・卯辰山クリーンデー
⑨地域美化運動推進事業	安心して住み続けられる環境をつくるため、歩道の清掃、沿道工作物の点検整備を行い、快適で安全な道路環境づくりに努める。	・公共設備の点検整備 ・幹線道路の清掃 ・案内板等の維持管理

### 2. その他の事業

事業名	事業方針	事業内容
①まちづくり環境整備受託事業	私有地の除草及び除雪作業等を地権者から受託する。	・私有地の除草等 ・樹木の伐採等
②公共施設管理受託事業	清掃及び管理業務を公共施設管理者から受託する。	・公共施設のモニター ・公園等の清掃等

### 令和2年度役員構成

役職	氏名	役職	氏名	役職	氏名	役職	氏名
理事長	高野 学	委員長	鈴木 忠和	総務経理	鈴木 忠和	情報公開	鈴木 愛作
副理事長	中村 治吉	副委員長	坂尻 峯男	地域交流	坂井 信明	環境保全	山本 順久
事務局長	鈴木 忠和	委員			南 謙次		中本 酷範
	鈴木 愛作				中村 治吉		桑本 一夫
					山岸 豊		城岸 整功
					荻川 政勝		若村 徹
					扇野 寛史		

## 街の声

「NEWS No.34号(R2.4.1)等のご意見感想から」

☆わが町探訪シリーズをいつも愛読しているのですが、今回は小学校の創立を詳細に調べていて感心しました。明治三十二年調査では、学年数が四年となっていて明治生まれの母親が小学校四年で子守り奉公に出された話を思い出しました。

☆Q&A、私の知らない事ばかりで、頭の体操にはぴったりです。色んな自然の事、もっと教えて欲しいです。  
☆今年も道路沿いにチューリップが並びました。今年は、あたたかいのでうまい咲いているのもあり、とても、うれしいです。いつもお世話ありがとうございます。

☆わが町探訪シリーズの話がおもしろいです。今度はすっかり風景が変わってしまった昔の話が興味深い。郷土こぼれ話も期待しています。  
☆数日前から、世間の自粛ムードとは関係なく、我家の車庫にはいつものように元気なつばめがやってきて、昨年の巣をせっせとリフォームしています。一日も早い収束を心から祈るばかりです。

☆四月に入りセットバックの植栽が季節柄のチューリップに植替えされ、新型コロナウイルスを吹き飛ばす五月晴れを仰ぐ様で感服致しお見事でした。  
☆ホテルの放流記事、暮れの頃から子供達の協力も得て、やってもらえるのですね。感心します。夏を楽しみにしています。

☆「郷土こぼれ話」次回続きのが楽しみです。太比(タヒ)という名前もとてもおもしろい感じがします。キラキラネームの流行は歴史とともに回るのでしょうか!!大変な世になりましたが、美化活動の継続ができるとうれしいです。  
☆なんと「わが町探訪シリーズ」が興味深いです。あの段々畑や所々にヤブなどあったあの頃が、こんなに変わるとは、歴史の話と合わせ今をつくづく感心して街を見ています。

☆近くで、ウグイスの鳴き声が聞こえる良い季節になりました。杜の里小学校の子供達が一日も早く通学できることを願っています。  
☆通勤ルートになっている若松町三丁目の交差点のチューリップが植えられているプラントを沢山見つけました。四月中旬現在、ほとんどがつぼみですが、キレイに咲いたチューリップを見ながら学校へ通うはずだった生徒たちが休校によりそのチューリップを見て登校できないことがとても悲しく思います。早く日常に戻ることを願うばかりです。

☆わが町探訪シリーズ15を毎回楽しみに見えています。今年は世界中、コロナがあらわれてこまります。花壇の花見が楽しみです。お世話さまで。

## わが町探訪シリーズ16 「鈴見分校」と「国民学校」

若松町の松尾三郎さんは「自分史」の中で、鈴見分校・国民学校時代について述べています。

【私は昭和5年(1930)生まれで本当の戦中派です。昭和12年4月、若松町の下田上尋常小学校鈴見分校(実際は鈴見分教場、分校になるのは昭和26年)に入学、鈴見分校は複式教育でした。1年生と2年生が一緒に教室で先生は1人で、3年生と4年生も同じく先生は1人です。分校は4年生しかありません。3年生頃から各集落(鈴見・若松・谷口・中瀬)の生徒は、それぞれのお宮さんの名前を付けた分団をつくり、集団登校となりました。

鈴見分校に入学したときの生徒数は男6人女10人でした。1年終了ごとに良い成績の生徒は優等生として表彰されました。4年生には分校終了の記念品があたりました。5年生になると下田上尋常小学校(田上町)へ行きます。5年生の生徒数は男17人、女21人でした。分校のときは仲がよかったが、下田上に意地悪がいていつも喧嘩していた。戦争が段々激しくなり、昭和16年(1941)4月から国民学校高等科(現中学校)、初等科(現小学校)になりました。分校の遠足は若松大池でしたが、5年生になると修学旅行は汽車に乗って行きました。

戦争が激しくなり生徒は防空壕への避難訓練をしました。(防空壕=運動場の西側に長さ約50m、幅約1.5m、高さ約1.5mの溝を掘り、天井部は木材を渡し土をかぶせたもので、多くの出入口があった。)6年生の12月に大東亜戦争が始まりました。初めの頃はどこを落とした。あそこを占領したといって、提灯行列や旗行列で田上校下を廻って歩きました。

毎月の8日の日、下田上のお宮さん(榊原神社)へ各集落単位の分団で並びお参りに行きました。勉強も体操の時間は剣道や柔道になりました。5年生迄はドッジボールやバスケットなどのボール遊びでしたが、それはアメリカや外国の運動だからといって、ボール遊びは禁止されました。卒業式に歌っていた「蛍の光」は、外国人が作曲したのだからといって歌わなくなりました。田んぼの忙しい時は勤労奉仕と言って、戦争で亡くなった家や、兵隊になって行かれた家への手伝いに行き、田植えや稲刈りの応援に行きました。

国民学校初等科(6年)を卒業して、国民学校高等科(2年

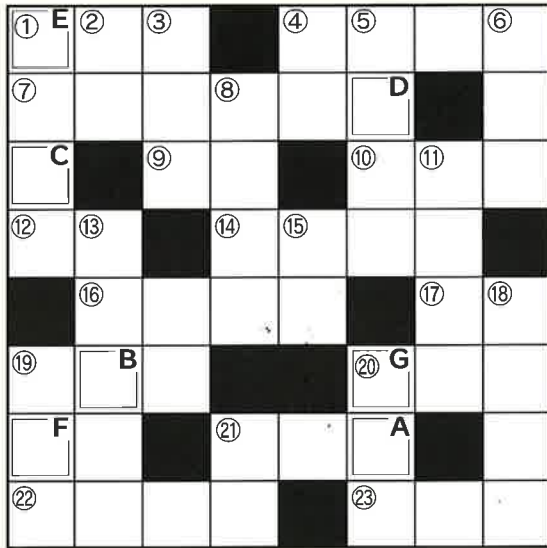


で終了)になると、今度は俵校下(俵等尋常小学校に高等科はなく、下田上の高等科に入学した)からの生徒が増えました。高等科の生徒は男20人、女38人です。高等科2年の時、私は若松八幡神社の分団長になり、若松からの小学生の集団登校の指揮をとりました。又、学校の旗手になりました。9月頃、袋(現在の袋板屋町)の紙工場に挺身隊の副隊長として行きました。この工場は紙を張り合わせて風船をつくり、爆弾を積みアメリカまで飛ばすのです。冬になって分団の一班(3年生から)の10数名が、4人ほど大人に連れられて山へ兎狩りに行きました。当時は山際の集落は兎の毛皮を集めて軍隊に出すと言われていたのです。兎が2匹も取れたので、大人は大変喜んで兎の肉でめった汁を食べさせてくれました。その当時、若松に若い人がいなく、30代後半の人が4・5人と、40代以上の人しかいません。その人たちも次々と兵隊になって行かれました。昭和20年(1945)3月に高等科を卒業すると、すぐに警防団員になりました。当時は各家庭にラジオはなく、警戒警報や空爆警報の時は一番に団員服を着て大声で集落をふれて廻りました。私自身は海軍航空兵に合格し、9月1日入隊予定でした。昭和20年8月に戦争は終わり、昭和22年4月から河北郡浅川村立下田上小中学校・鈴見分校になりました。】

(松尾三郎氏の「若松の歴史と伝説・自分史」より抜粋)  
郷土歴史研究家 亀田輝之



# クロスワードパズル



答	A	B	C	D	E	F	G	公園
---	---	---	---	---	---	---	---	----

〈ヒント〉上若松の公園名

## 応募方法

- ◎郵便はがきに解答と住所、氏名、感想等を記入し、7月31日までに、次の所へお送りください。  
〒920-1165 金沢市若松町3-281  
NPO金沢社の里情報公開委員会係

## 問合せQ&A

**Q.**住宅新築等建築申請の際、事前審査の必要性を教えてください。

**A.**若松・鈴見土地区画整理区域内においては、金沢大学の門前街にふさわしい緑豊かな街並みと良好な住宅環境の街づくりを実現するため、金沢市の条例によるほか当地区独自の「地区計画」により、建物の建て方等に関するルールを定めています。従って、当区域内で建築等を行う際は、金沢市に提出する届出書の他にセットバックに係る「緑化に関する同意書」の取得が審査対象となるので、事前にNPOと相談し審査を得る必要があります。

**Q.**案内表示板は誰が維持管理をしているのですか。

**A.**社の里地域に設置されている案内標識板は、区画整理施工地内の換地処分に合わせ、旧町を取組んだ新しい町塚・町名が誕生した折、区画整理住居整備事業により設置されたものであります。区画整理組合の解散に伴って、施設工作物である案内標識板の管理をNPOが引き継ぎ、引き続き維持管理に取り組んでいるところであります。これからは、現況の利用状況や老朽化を調査しながら、行政及び地権者の許可を得ながら、棄損の著しいものから順次撤去する方針です。

新型コロナウイルス発生により、緊急事態宣言、特例警戒県、不要不急の外出自粛の日々でした。早期終息を願いたいものです。当法人は今年も沿道脇に四季折々の花を彩り、緑豊かな自然環境と景観を保全し、緑と花の溢れる街づくり活動を会員一同、地域の皆さまに喜んでいただけることを目指して参ります。皆さまの暖かいご意見、感想等が街づくりの励みになります。お便りをお待ちしております。(編集後記)

## ヨコのカギ

- 国内の一部分の土地
- 野菜をゆでて醤油等をかけた食べ物
- 同級生
- 身分の高い人につく医者
- 危険・損害をこうむるおそれ
- 決まり
- 眉のあたりにしわを寄せる
- もうけたお金のこと
- ふとこに隠し持つ刀
- 決まった時期の間
- 粗末な品物
- 北東の方向
- ガラス等の水のみ

## タテのカギ

- たくわえること
- 物事を大げさに言うこと
- 布などの薄いもの
- 二人目の前
- 五感の一つ
- 良い銘柄の酒
- 先がとがっている
- 二度以上同じことをする
- 気持ち
- 消印
- 今日の前日
- 大豆をいって粉にしたもの
- 空模様

◎35号の正解者の中から抽選で15名様に粗品を8月上旬に発送します。

◎35号の解答は、令和2年11月発行の36号に掲載します。

◎34号の解答は「スズミドングリ」公園でした。

## 郷土こぼれ話

### 大刀の山とちようずばち②

村人は二つに分かれて応援していた。次は、力太郎。力太郎もなんなく持ち上げた。こうして二人は村人の見守る中で、行司の指示する石を、次々と持ち上げていった。

「では、いよいよ80貫。」

太比は両腕で抱え、両足でふんばり、ゆっくりと持ち上げた。村人は、大きな拍手を贈った。今までの太比の記録は、64貫どまりであったからだ。力太郎はだまのまま目をつむって正座していた。

「よし。」と急に立ち上がると、石に近づき、太比と劣らぬ早わざで持ち上げてしまった。これには、太比を応援していた村人からため息もれた。

“やはり力太郎かも知れないな”と思う不安がよぎった。いよいよ決戦。太比は“よし”と言い聞かせて、両手両腕をかけた。そして腰を低くしてふんばった。

1秒、2秒、3秒……6秒もたったであろうか、徐々に石が持ち上がったが、どうしたことか、石が落ちてしまった。

「あっ。あぶない！」

見つめる村人がみな叫んだ。幸い太比は自分から落としたので、けがから逃れることができた。

「あんな大きな石の下敷きになっちゃ、とても助からん。」

「いや、即死じゃよ。」

「でも太比が負けてくやしい。」

「何をいう。けががなくて何よりじゃ。」

「もう勝ち負けなんぞどうでもいい。」

「そうや、そうや。」

「力持ちの若者が一人でも少なくなることは、村、いや郷の損失じゃ。」力太郎の応援の村人まで、けがのなかったことを喜んでた。

数回にわたって掲載します。  
資料/わがふるさと 今・むかし 一田上校下の歴史